

平成22年度 日本家政学会

色彩・意匠学部会報

No. 7

発行日 平成23年3月31日
発行人 日本家政学会色彩・意匠学部編集発行
事務局 〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地
東京家政学院大学 現代家政学科 1705室（蒲池）
TEL/FAX：03-3262-2617

《平成22年度総会報告》

平成22年5月29日（土）広島大学教育学部（日本家政学会第62回大会会場）において、「平成22年度総会」を開催、以下の議事について報告、検討を行い、承認された。

議事

平成21年度事業報告

1. 総会
新型インフルエンザによる日本家政学会第61回大会延期により、書面にて臨時総会とする
2. 役員会
平成21年8月24日（月）花王株式会社栃木工場
平成22年3月6日（土）白河院
3. 連絡懇談会
平成21年8月25日（火） 御薬園（夏季セミナー会場）
4. 平成21年度夏季セミナー
平成21年8月24日（月）～8月25日（火）
花王株式会社栃木工場／ヒューマンヘルスケア研究センター・御薬園
5. 情報交換会
平成21年8月24日（月） 夏季セミナー宿泊 ホテル華の湯
6. 共同研究打ち合わせ
平成21年8月24日（月） 夏季セミナー宿泊 ホテル華の湯
7. 講習会
平成22年3月6日（土） IANT（NPO インターナショナル自然染織委員会）
8. 平成21年度役員構成
部会長：橋本令子
副部会長：成田巳代子、石原久代
常任委員：
＜庶務＞小町谷寿子、花田美和子
＜会計＞井澤尚子、佐々木由美子、小吹史子
＜会報＞蒲池香津代、内藤章江
＜セミナー＞武井玲子、井澤尚子
＜春季講習会＞田岡洋子、近藤信子、宮武恵子
＜共同研究＞伊藤陽子、橋本令子
＜顧問＞吉岡徹、伊藤紀之、加藤雪枝、盛田真千子
＜監事＞芦澤昌子、斎藤祥子

＜プログラム＞

- 8月24日（月）会場：花王株式会社
花王株式会社栃木工場／ヒューマンヘルスケア研究センター講演会・工場見学
講演1）「生理用ナプキンおよび紙おむつの現状と開発動向」
講師：花王株式会社サニタリー研究所 豊島泰生氏

9. 平成21年度会計報告

平成21年4月1日～平成22年3月31日

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越金	9,312	管理関係費	24,155
部会費	34,000	事業費関係	359,347
演讲・講演参加費	361,000	投資活動支出	40,000
投資活動収入	20,000	次年度繰越金	835
利息収入	25		
合計	424,337	合計	424,337

以上の報告通り相違ありません。

監事 橋 喬子 印 (平成22年4月8日)

畑 久美子 印 (平成22年4月8日)

平成22年度事業計画

1. 総会

平成22年5月29日(土) 広島大学教育学部
(日本家政学会第62回大会会場)

2. 役員会

平成22年8月26日(木) ホテル竹島
平成23年3月を予定(講習会時)

3. 連絡懇談会

平成22年8月26日(木) ホテル竹島

4. 平成22年度夏季セミナー

平成22年8月26日(木)・27日(金)
会場：蒲郡商工会議所、伊藤光学工業株式会社豊川工場、夢織人(三河繊維産品アンテナショップ)
講演会：バリアントールや開発商品など解説など

5. 情報交換会

平成22年8月26日(木) 夏季セミナー宿泊ホテル竹島

6. 共同研究打ち合わせ

平成22年8月26日(木) 夏季セミナー宿泊ホテル竹島

7. 講習会

平成23年3月5日(土) 私学会館アルカディア市ヶ谷、印刷博物館

8. 平成22年度役員構成

部会長：橋本令子

副部会長：成田巳代子、石原久代

常任委員：

<庶務>小町谷寿子、武井玲子、宮武恵子、
花田美和子

<会計>井澤尚子、佐々木由美子、小吹史子

<会報>蒲池香津代、畑久美子、内藤章江

<セミナー>石原久代、小町谷寿子、大澤香奈子

<春季講習会>近藤信子

<共同研究>伊藤陽子、橋本令子

<顧問>伊藤紀之、加藤雪枝

<監事>芦澤昌子、斎藤祥子

9. 平成22年度予算案

平成22年4月1日～平成23年3月31日

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越金	835	通信費	15,000
平成22年度	40,000	事務費	5,000
部会費			
平成22年度	370,000	印刷費	10,000
夏季セミナー会費			
平成22年度	60,000	会議費	9,000
春季講習会費			
		夏季セミナー 開催費	370,000
		春季講習会 開催費	60,000
		雑費	1,000
		次年度繰越金	835
合計	470,835	合計	470,835

平成22年度総会議事録

日時：平成22年5月29日(土)11:30～12:30

場所：広島大学 K216

司会：石原副部会長

参加者数：8名 委任状17名

I. 部会長挨拶

橋本部会長より挨拶がなされた。

II. 報告・審議事項

1. 平成21年度事業報告

小町谷委員より、平成21年度事業報告がなされ、了承された。

2. 平成21年度会計報告

佐々木委員より21年度決算の収入の部と支出の部について報告がなされ、承認された。この中で学会本部から一般社団法人化に向けて、万単位の金額については、貯蓄をしている(各部会とも同様)が、このお金はどのように使用できるかという質問があった。この点については会長から、本部に問い合わせることと

なった。

3. 平成21年度会計監査報告

橋本部長より、監査役員が本日欠席のため橋役員から紙面提出された監査報告が代読され、了承された。

4. 平成22年度事業計画案

小町谷委員より、平成22年度事業計画案が報告され、了承された。

5. 平成22年度予算案

井澤委員より、前回の役員会にて報告された平成22年度の予算案に春季講習会の予算を追加修正した案が報告され、承認された。なお、今回は平成21年度会計報告と監査、平成22年度の予算案について、本部の形式によって報告されたが、来年度からは部会報告用のわかりやすい形式でも監査してもらい、部会報告用の形式で報告することが提案され、承認された。

6. 平成22年度夏季セミナーについて

夏季セミナー担当の石原委員より、平成22年夏季セミナーの内容と詳細な日程について、説明がなされた。

7. 平成22年度色彩・意匠学部役員について

橋本部長より、平成22年度色彩・意匠学部役員について報告がなされ、承認された。

8. 学会法人化にむけての進捗状況及び色彩・意匠学部会規約について

橋本部長より、学会法人化にむけての新規約案が本部に提出され、3月に本部から了解の連絡があったことが報告された。なお、名誉会員についても検討されたが、これまでの部会規約を継承し、新規約にも付則しないこと、施行は5月29日とすること、修正があれば今後検討していくことが報告され、承認された。

9. その他

①伊藤陽子委員よりユニバーサルデザインについての共同研究について、ユニバーサルウェアを中心として今後も研究を進めていくことが報告された。

②近藤委員より、22年度春季講習会について、内容・会場等について検討し始めていることが報告された。

III. 閉会挨拶

橋本部長より閉会の挨拶がなされた。

《 夏季セミナー報告 》

平成22年度（社）日本家政学会色彩・意匠学部会第32回夏季セミナーが平成22年8月26日（木）～27日（金）の日程で愛知県蒲郡市の蒲郡商工会議所、愛知県産業技術研究所三河繊維技術センターおよび伊藤光学工業株式会社にて開催された。参加者は、のべ27名であった。

今回のセミナーのテーマは「人にやさしい、環境にやさしい色彩を考える」ということで、元日本色彩学会会長・東京芸術大学名誉教授の小町谷朝生先生をお招きして「色彩は万能か、万脳か」というタイトルで「見る」ということに焦点を当て、RG視の演習を含めたご講演をいただいた。また、「人にやさしい色」として、色弱者の見えを体感する色弱模擬フィルタ「バリアントール」を開発・製造している伊藤光学工業株式会社の宮崎氏の講演および工場見学、さらに「環境にやさしい色」として、今回のセミナー開催地の特産物である蒲郡みかんの剪定伐採された枝葉から天然色素を抽出・染色技術を開発した愛知県産業技術研究所三河繊維技術センター小林氏の講演およびセンターの見学という盛りだくさんの企画で実施した。

＜プログラム内容＞

- 8月26日（木） 会場：蒲郡商工会議所
 - 13:00～13:20 受付
 - 13:20～14:00 部会打ち合わせ会
 - 14:00～15:45 講演1「色彩は万能か、万脳か」東京芸術大学名誉教授・現文星芸術大学教授 小町谷朝生氏
 - 16:00～17:00 講演2「カラーユニバーサルデザインへのアプローチ：支援ツール開発を通して」伊藤光学工業株式会社技術部 主務 宮澤佳苗氏
 - 17:00～17:30 見学1「夢織人」（三河繊維製品アンテナショップ）見学
 - 19:00～ 情報交換会（ホテル竹島）
- 8月27日（金） 会場：愛知県産業技術研究所三河繊維技術センターおよび伊藤光学工業株式会社 豊川工場
 - 9:20～ ホテル竹島 出発（全行程マイクロバス予定）
 - 9:30～11:00 見学2 愛知県産業技術研究所三河繊維技術センター「地域農産物由来天然色素による染色技術の開発」三河繊維技術センター開発技術室 主任 小林孝行氏「その他コンピュー

タジャガード織などの施設見学」

11:30~13:00 昼食

13:30~14:30 見学3 伊藤光学工業株式会社 豊川工場「バリエントールの製造工程」

15:30 蒲郡駅解散

1) 講演1 「色彩は万能か、万脳か」

講師：小町谷朝生氏（東京芸術大学名誉教授・現文星芸術大学教授）

50年間の長きにわたり色彩研究をリードし、多くの著書や論文を発表して来られた元日本色彩学会会長の小町谷朝生先生のご講演は、科学的であり、また哲学的で、さらに人が「見る」という行為そのものについて考えさせられ、非常に魅力的な内容であった。以下に先生の講演内容をまとめた。

色彩は、地表世界を満たしており、人間は、常に色彩のある世界で生活している。色彩は知覚世界の基本条件となっており、色彩万能の知覚である。

一方、人間の特徴は脳による行動であり、色彩も脳の知覚機能の管理下にある。脳は経験によって作動する器官であるから、今も昔も脳で見てきたわけである。言い換えれば、人間的な万脳によっての視覚的行動である。しかし、人間には捨てる能力、すなわち「見えていて見えない能力」があるから、多くあるはずの雑音には悩まされない。

さらに、人間の視覚系の特徴は、横に並ぶ左右の2眼で見ていることにある。つまり、2眼1視である。それぞれの眼には、中心部と周辺部という機能差がある。その4系統による視覚情報の入力が、左右脳に運ばれて1つの視情報に変わる。それには、①どこかでぱっきりきる、②無理やり一つにまとめる、という荒技を使っているに違いない。その無理は表面には出ないように隠されてはいるが、必ずある。

以上のような内容の中で、RG 視の体験実習も含めたお話して、まだまだ時間があれば続きをお聞きしたいご講演であった。



講師の小町谷朝生先生、宮澤佳苗氏を囲んで
(講演会場の蒲郡商工会議所にて)

2) 講演2 「カラーユニバーサルデザインへの

アプローチ：支援ツール開発を通して」

講師：宮澤佳苗氏（伊藤光学工業株式会社技術部主務）

「人にやさしい色」として、27日に見学予定の伊藤光学工業株式会社から、色弱模擬フィルタの開発に従事された宮澤氏にご講演いただいた。

色覚の種類や視覚のメカニズム、カラーユニバーサルデザインの必要性とその現状、さらに開発に至る経緯など細かくご説明いただいた。また、先に発売されている色弱模擬フィルタ「バリエントール」の最新版として新しく開発されたP・D個別型と「イーガ」も紹介いただいた。

3) 見学1 「夢織人」(三河繊維産品アンテナショップ)

三河木綿、三河木綿縞をはじめとする繊維産地蒲郡の力を結集した三河繊維産品アンテナショップ「夢織人」を見学した。ここでは製品だけでなく糸・生地なども含めて、蒲郡市を中心に産官学が連携して開発した新商品も試験的に販売されている。



情報交換会場のホテルからの風景

4) 見学2 愛知県産業技術研究所三河繊維技術センター

「地域農産物由来天然色素による染色技術の開発」三河繊維技術センター開発技術室 主任 小林孝行氏「その他コンピュータジャガード織などの施設見学」

三河繊維技術センターは、昭和2年に三河繊維試験場として設立され、現在は、蒲郡、知多地域を中心に生産されている綿や合繊維物をはじめとする繊維業界に対する技術支援機関として、産地特有の技術に加え、海洋、農業、土木など各種用途に応じた新しい産業用繊維資材の開発に力を注いでいる。

今回、この施設を見学した理由は、「環境にやさしい色」として、これまで剪定・廃棄されていた蒲郡特産のみかんの木の枝葉から抽出した色素を使い、地元特産品である綿の織物や糸に種々の色彩に染める技術を開発したことからである。技術の開発を手がけた小林氏から、

色素の抽出方法、色素成分の定性・定量、色素の安定性向上の検討、染色方法の検討、堅牢度などの評価などについてご講演いただいた。また、実際の試作品の説明もいただき、今後の商品化の様子も窺えた。また、センターの見学においては、ここ地域独自のジャガード織関係機器、ベルトロープ引張式試験機などこれまで見たことの無い興味深い機器の説明も受けた。



三河繊維技術センター見学風景

5) 見学3 伊藤光学工業株式会社 豊川工場「バリエーションの製造工程」

伊藤光学工業は昭和31年に創業以来、光学製品のメーカーとして、眼鏡レンズのコーティングやコンタクトレンズ製造を初めて国内で実用化した企業である。世界最先端のコーティング技術と高性能プラスチックレンズの生産力、10000分の1ミリの精度を誇るコンタクトレンズの三つの柱に加え、新たに光学部品のコーティングを最新鋭の設備を導入し手がけている企業である。また、本部会が共同研究として行なっている「色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究」の中で使用している色弱者模擬フィルタ「バリエーション」を開発した会社でもある。今回は、その豊川工場の生産ラインを見学するとともに、新しく開発されたP・D個別型と「イーガ」を体感させていただいた。



バリエーションP・D個別型を体感

本年度の夏季セミナーは、小町谷朝生先生の素晴らしいお話しや地元にも密着した講演や見学だけでなく、風光明媚な観光地である蒲郡にて開催し、情報交換会会場は写真にもあるように目の前に三河湾が広がり、絶景であった。なお、今回、セミナーを無事終了できたことは、ご参加いただいた皆様のご協力によるものであり、実行委員一同、深く感謝いたします。

(夏季セミナー実行委員長：石原久代、
委員：小町谷寿子・大澤香奈子)

《 色彩・意匠学部会共同研究について 》

◆ 色弱者に配慮した衣服の色表示に関する研究

本研究は、衣服の色表示の改善方法を社会に向けて提案、発表するため、衣服におけるカラーユニバーサルデザインについて研究を進めることを目的に平成19年度から調査を開始した。これまでに、衣服色の表示方法、店舗での販売方法、消費者の意識など現状把握するための実態調査を実施し、具体的な色表示の方法を検討するために、一般色覚者を対象とした色弱模擬フィルタを用いた実験、さらに慣用色名を用いた認知度調査を実施した。平成22年度は、色弱者を対象とした調査・実験を実施し、その結果を日本家政学会第62回大会において発表したため下記に報告する。

(5) 色弱者における慣用色名の認知度

内藤章江(発表者)、橋本令子、石原久代、井澤尚子、橘 喬子、稲垣 有美子、芦澤 昌子

【目的】

前報では、一般色覚者における慣用色名の認知度を明らかにし、色弱模擬フィルタを用いた色の判別実験により、色弱者がどの程度色を識別し、把握しているかを模擬的に検討した。そこで本研究では、色弱者を対象に慣用色名の認知度調査を実施し、色弱者がどの程度慣用色名を認知しているか明らかにすることにした。

【方法】

調査対象者は、主に赤緑色弱の男性7名(10-20歳代2名、30-40歳代2名、50歳代以上3名)であり、2009年11月~12月上旬に質問紙留め置き調査を用いて実施した。調査に使用した慣用色名は、一般色覚者を対象に行った調査と同様に184色(和色名112色、英色名72色)とし、それぞれの認知度を「色名も色も知っている」、「色名は知っているが色は知らない」、「色名も色も知らない」の三段階で回答させた。これらの回答は、単純集計等を用いて解析・考察した。

【結果及び考察】

184色の中から、認知度70%の色名を挙げた場合、一般色覚者は63色(和名43色、英名20色)であるのに対して、色弱者は46色(和名30色、英名16色)であった。この認知度70%以上の色名には、基本色名(有彩色10色・無彩色3色)や食べ物の色、肌の色などが含まれているが、色弱者については基本色名のうち「青緑」と「青紫」の認知度が低くなった。これより、色弱者は緑から紫の中間色を明確に区分していないと推察できる。

一般色覚者、色弱者ともに、年齢の上昇に伴い認知される色数は増加するが、色弱者の方が認知している色名は少ないため、衣服の色表示を行う際には、色弱者の色認知の範囲を考慮し、一般色覚者と共通で認識された色名を用いる必要があるといえる。

(研究グループ代表:内藤 章江)

(6)色弱者による色の判別実験

橋本令子(発表者)、石原久代、内藤章江、井澤尚子、橋 喬子、稲垣 有美子、芦澤 昌子

【目的】

近年、カラーユニバーサルデザインという言葉が耳にする機会が多くなり、色弱者のために様々な分野で取り組みが行われているが、衣服については関心が向けられていない。衣服をコーディネートする際には、誰もが商品の色を重視するように色弱者にとっても同様である。これまで我々は、色弱者に配慮した衣服の色表示について提案するため研究を進めてきた。今回は色弱者が色をどのよう識別し把握しているか、判別実験を行い検討した。

【方法】

試料は、前報の模擬フィルタを用いて行った実験結果を基に、PCCSのvトーンより赤・黄赤・黄・黄緑・緑・青緑・青・青紫・紫・赤紫の基本色相を各2色、dk・p・lt・d・ltg・g・dkgから各1色を選出し、これに白・灰・黒の9色を加えた計99色票とした。実験は、北窓自然屋光下で照度約2000lxにて行った。被験者は、赤緑色弱者の男性7名である。色の判別はグレー台紙上にて、3cm×3cmの大きさの色票を視感判定し、同じ色に見える色票を15~20グループにまとめ、色名を回答した。そして単純集計を行い、解析した。

【結果及び考察】

回答された色名は計127色であり、内訳は系統色名が47%、慣用色名が53%である。その中で色名に表記された修飾語は、系統色名37%、慣用色名15%を示し、正常色覚者に比べ使用頻度が低いことが認められ

た。しかし、明度・彩度を表す「うすい」「濃い」の修飾語は、使用回数が多いことがわかった。色名を色相別に分類した結果、黄赤・緑・青・白・灰・黒は判別する色票数が該当数よりも多く、青緑・青紫・赤紫はその反対であった。これは、「色弱者の慣用色名の認知度」においての結果と類似した傾向を示した。また、被験者間で共通した色名を持つ色も見出すことができた。

(研究グループ代表:橋本 令子)

《 お知らせ 》

平成23年度 夏季セミナー

平成23年度色彩・意匠学部会夏季セミナーを下記の通り、開催致します。今回は中国韓国等、昔から往来が盛に行われている福岡を中心に「アジアへ向けて発信」と題して行います。部会員はじめ、部会員以外の方々の参加も歓迎いたしますので、奮ってご参加下さい。

月日:平成23年8月25日(木)・26日(金)

会場:香蘭女子短期大学
(福岡市南区横手1丁目2-1)

内容:

1日目

講演1「上海万博日本分室でのショー出展報告」
香蘭女子短期大学講師 古森恵子氏

講演2「2010大連国際ファッションフェスティバル状況報告と2011参加予定報告」
香蘭女子短期大学講師 宮崎千草氏

講演3「上海で展開している学生服メーカーの現状」
尾崎商事株式会社 原田季典・梅林千晶氏

2日目

講演と見学 有田陶芸研修
「九州の陶磁器について・博物館見学」
—九州陶磁文化館—

見学2「窯元めぐり—柿右衛門窯・井上萬二窯」

見学3 有田の町散策—深川製磁・今右衛門窯・トバイ塀の通り等

情報交換会:武雄温泉または嬉野温泉

申し込み・問い合わせ先：
〒811-1311 福岡市南区横手1丁目2-1
香蘭女子短期大学ファッション総合学科
TEL 092-581-1538
e-mail : tokuyama@koran.ac.jp 徳山真由美

◇詳細は、後日案内をさし上げます。

色彩・意匠学部会 ホームページの開設

平成22年度より、色彩・意匠学部会のホームページを開設しました。部会における取組の紹介やイベント情報などを掲載しています。是非ご覧ください。



☆色彩・意匠学部会ホームページ URL
<http://shikisai-isyou.sakura.ne.jp/index.html>

色彩・意匠学部会規程

第1章 総則

- 第1条 この部会は色彩・意匠学部会と称する。
第2条 この会は、(社)日本家政学会の全国的な会員の交流をはかり、色彩・意匠の学術・研究の成果を高め、家政学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第3条 この会はその目的を達成するために次の事業を行なう。
- 1) 研究会
 - 2) 研究発表会・討論会
 - 3) 講習会(セミナー)
 - 4) 研修・見学会
 - 5) 成果の印刷物配布
 - 6) その他の必要とする事業
- 第4条 この事業の年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わりとする。

第3章 会員

第5条 この会は(社)日本家政学会の会員をもって構成する。

第4章 役員

第6条 この会の運営を円滑にするため次の役員をおく。

部会長	1名	(付1)
副部会長	2名	
監事	2名	
常任委員	若干名	

第7条 役員の職務は互選によって定め、総会の承認を得る。

第8条 役員の任期は2年とする。ただし再選をさまたげない。

第5章 会費

第9条 本会の会費は年額千円とする。

付則

この規程は昭和53年4月1日より施行する。

この規程は昭和58年8月26日より改定施行する。

この規程は平成元年8月22日より改定施行する。

この規程は平成15年8月28日より改定施行する。

申し合わせ事項

1. 役員の職務は庶務・会計・セミナー・企画の係を分担する。
2. 庶務・会計は会員の中から補佐を依頼することが出来る。
3. 事務局は会計責任者の勤務先住所とする。(付2)
4. 会計は会計責任者名で口座を開設する。

(付1)：部会長連絡先(平成23年4月1日から)

〒520-0803 滋賀県大津市竜が丘24-4

滋賀短期大学 生活学科 成田 巳代子

TEL077-524-3605 AX077-523-5124

e-mail : hifuku@sumire.ac.jp

(付2)：事務局連絡先(平成23年4月1日から)

〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地

東京家政学院大学 現代家政学科 1705室 蒲池香津代

(部会費振込み先) 口座番号：0014-5-389316

口座名義：色彩・意匠学部会

＜編集後記＞

この度の大震災において多くの尊い命が奪われ、そして無数の方々が辛い目に遭われました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。まだまだ不安な日々が続くこのような状況の中、皆様のご協力のもと会報の発行に至りましたこと深く感謝申し上げます。皆で力を合わせこの苦境を乗り越えられますよう願うばかりです。

(担当：蒲池、内藤、畑)

